



Future with Dynamism

In Otsu water front Area, Design Project 2014 -



湖岸エリアの賑わい創出に向けた提言書

平成30年3月

【 大津市中心市街地活性化協議会／湖岸デザインプロジェクト会議 】

目次

第1章 はじめに	1
1.1 目的	1
1.2 これまでの取組経緯	2
第2章 なぎさ公園の現状と課題	14
2.1 なぎさ公園の現状、問題点、課題	14
第3章 なぎさ公園の賑わい創出に向けた方針	24
3.1 なぎさ公園活用コンセプト	24
3.2 エリア別の考え方	26
第4章 湖岸エリアの賑わい創出に向けた提言	28
4.1 湖岸エリアの重要性	28
4.2 湖岸エリアの整備に関する関連法令の改正	28
4.3 湖岸エリアの賑わい創出に向けた提言	30
4.4 湖岸エリアの整備イメージ	35
第5章 参考資料	36
5.1 なぎさ公園賑わいのイメージカラー	36
5.2 湖岸デザインデッサン集	37

第1章 はじめに

1.1 目的

大津市中心市街地では、平成20年7月に大津市中心市街地活性化基本計画を策定し、「大津駅前・湖岸を結ぶ都市機能の集約・複合化」、「大津百町の歴史・文化を生かす暮らしと賑わい創出」、「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」の3つの基本方針のもと、官民それぞれが協力して各種活性化事業に取り組んできたところです。

一方で、取り組みを進める中、中心市街地全域への回遊性がやや乏しいため、JR大津駅から大津湖岸なぎさ公園（以下「なぎさ公園」といいます。）を含めた動線の再構築の必要性が喫緊の課題として挙げられていました。

そのような中、大津市では、JR大津駅からなぎさ公園に向かう、市道幹1037号線（通称「中央大通り」）において、駅前道路にふさわしい風格と賑わいあるまちなみ・機能のあり方を検討し、JR大津駅から湖岸までの楽しく歩ける動線づくりの検討が進められています。

また、平成29年4月以降に琵琶湖敷地の占用許可基準や都市公園法の改正が行われ、オープンスペースの利活用について、より柔軟な制度の適用に向けた変更がなされています。

そこで、本書では、なぎさ公園において、JR大津駅から湖岸までの動線づくりとの相乗効果を創出するような琵琶湖の持つ環境特性を生かした水空間の利活用を促進するため、滋賀県琵琶湖敷地の占用許可基準の改正や都市公園法の改正を活用し、より柔軟な発想のもと、これまでの湖岸デザインプロジェクト会議での研究や議論を踏まえつつ、なぎさ公園（湖岸エリア）の賑わい創出につなげるため、本プロジェクト会議の視点から提言としてとりまとめを行ないます。

1.2 これまでの取組経緯

1.2.1 第2期中心市街地活性化計画

(1) 基本理念と基本方針

第2期中心市街地活性化計画では、第1期中心市街地活性化計画を継承しており、基本理念として次のように定められています。

3つの基本方針のうち「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」の方針では、「琵琶湖は大津市の重要な観光拠点の一つであり、琵琶湖湖岸地区において、その環境特性を生かし、まちなかの集客との相乗効果を創出するような大津らしい個性ある観光面での琵琶湖の活用を図っていく。そして、環境と共生したまちづくりを推進する視点を持って取り組みを進め、社会・経済・文化における先導的な役割を果たすことを目指す。」としています。そのため、中心市街地の区域設定を大津市の特徴である琵琶湖岸を生かした区域として、なぎさ公園やびわ湖ホールを含むエリアを区域として設定されており、大津らしい活性化に取り組むためにも琵琶湖岸の活用をめざすものとしています。

これに伴い、なぎさ公園利活用計画は「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」の方針に基づくものとなります。

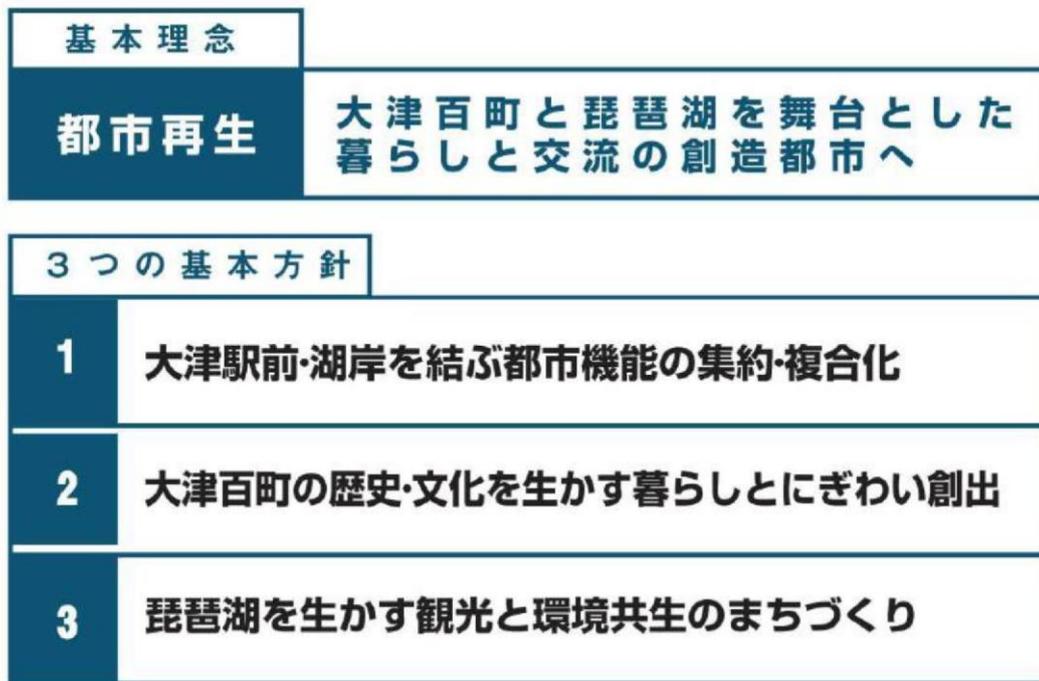


図 1.2 基本理念と基本方針

(2) 中心市街地のエリア設定

中心市街地において、3つの基本的な方針に基づく事業を効果的に実施していくため、地域特性に応じたエリア設定を行が行われています。エリアは、地域特性から「湖岸エリア」、「大津百町エリア」、「駅・県庁周辺エリア」の3つに分類されており、下図のとおり区域が定められています。

- ・湖岸エリア…大津港から湖岸公園における自然景観・環境に恵まれた区域。
- ・大津百町エリア…旧東海道を中心とした大津百町の歴史資源を多く残す区域。
- ・駅・県庁周辺エリア…J R大津駅周辺と滋賀県庁をはじめとして昭和以降の建造物が並ぶ、県都として風格のある区域。

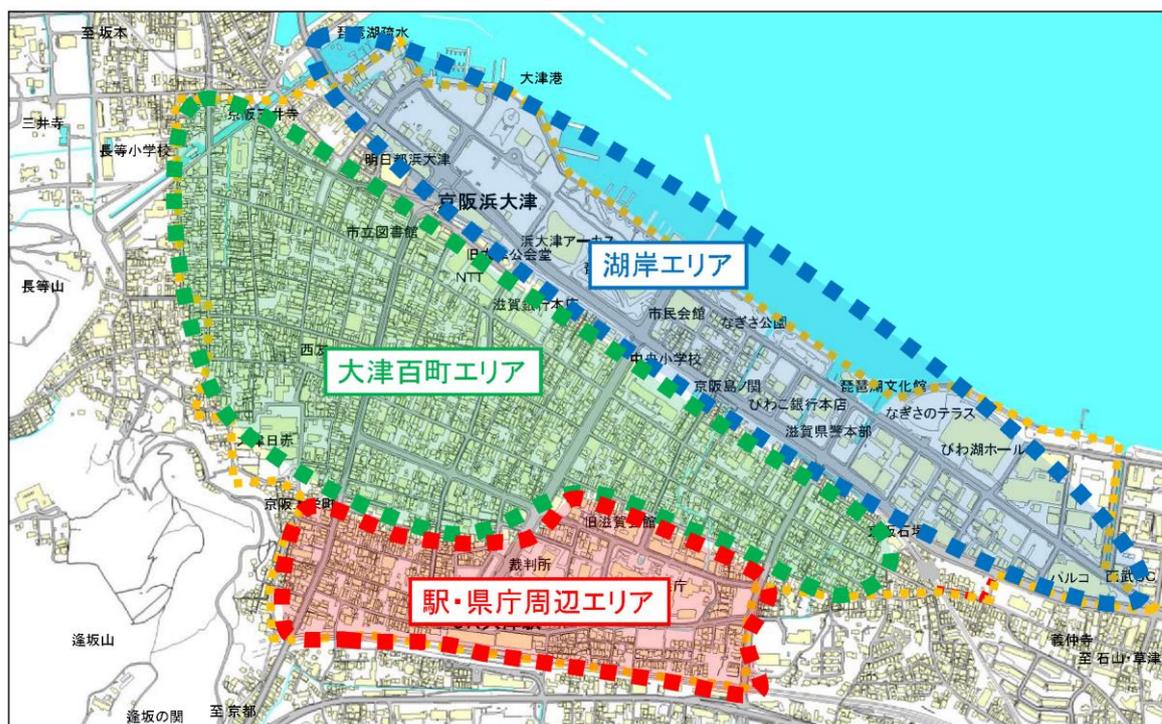


図 1.3 中心市街地エリア

(3) 中心市街地活性化の目標

第2期中心市街地活性化計画は、第1期から目指すべき方向性に大きな変更がないことから、基本方針とともに活性化の目標についても1期計画を継承し、大津駅前から港への動線、旧東海道を中心とする面的な大津百町エリア、また琵琶湖を生かした観光による集客を図る湖岸エリアにおける3つの目標を以下のとおり定めています。

1) 駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわい創出

かつて最も賑わいのあった大津駅前商店街から大津港への動線とともに2期計画では新たに県庁周辺を経由する動線を構築することにより、人の流れとにぎわいを創出するとともに大津百町エリアへの波及効果を創出する。

2) 町家等の活用による複合的都市機能の充実

旧東海道及び沿道に重点を置き、大津の歴史・文化を生かした活性化を市民や事業者との協働により推進することにより、活性化への意識と気運を一層高めるとともに、居住や商業機能などが共存する複合的都市機能の充実を実現する。

3) 琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化

琵琶湖湖岸・港において、自然景観及び環境に加え、文化、アートをテーマとした一体的な取組みによる新しい観光を創造することで湖岸エリアの集客・交流機能を強化するとともに、大津百町エリアとの連携による相乗効果を創出する。



図 1.4 基本方針と活性化の目標

(4) 目標達成に向けた事業展開の考え方

1) 目標と事業の位置付け

目標達成に向けては、それぞれの目標につながる具体的な事業が明確になっていることが必要であることから、目標と各事業についての位置付けを以下に示します。

また、国が閣議決定した「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針」に位置づけられている要素との関連性も示します。

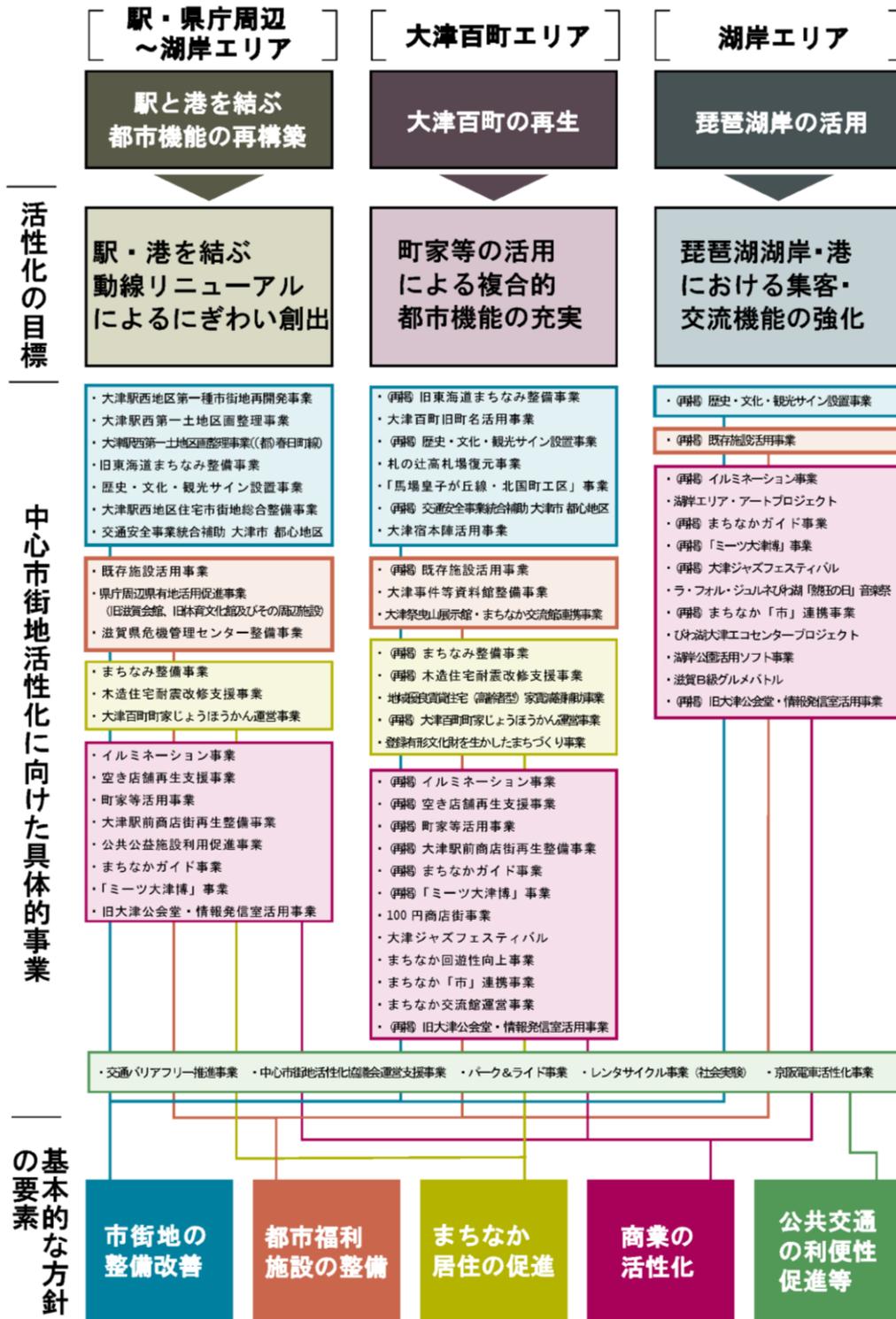


図 1.5 目標と事業の位置づけ

2) 活性化の事業展開イメージ

中心市街地の活性化に向けて3つの目標を達成していくため、活性化区域においてどのような事業展開を進めていくのかを整理した事業展開の概念図を以下に示します。

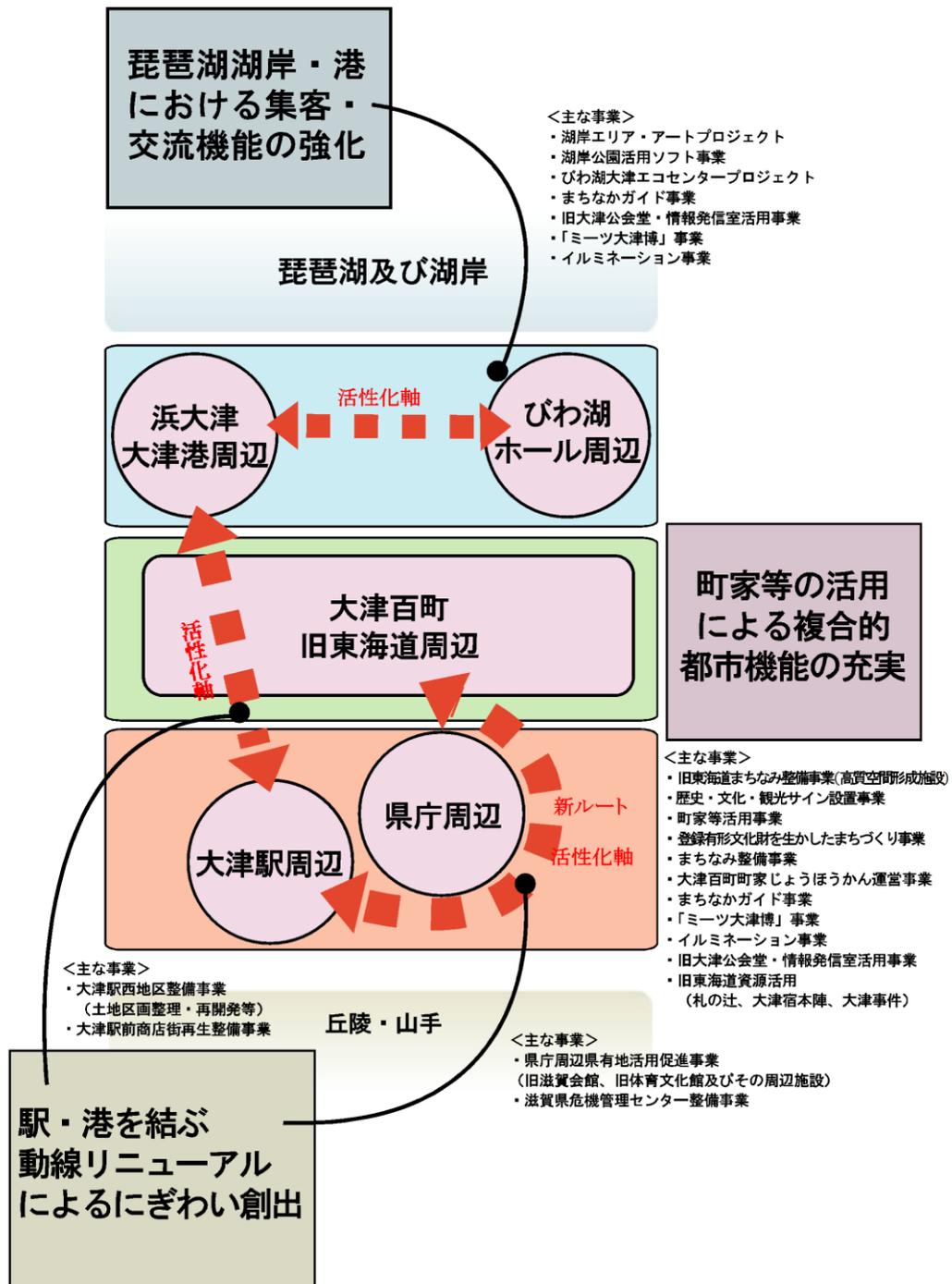


図 1.6 事業展開の概念図

3) 湖岸エリアの方向性

湖岸エリアの方向性では「浜大津・大津湾周辺」と「琵琶湖及び湖岸とびわ湖ホール周辺」の2つで方向性が定められています。

浜大津・大津港周辺は、『大津百町エリア』と『湖岸エリア』を繋ぐ結節点に位置づけられ、周辺には明日都浜大津やスカイプラザ浜大津など中核拠点施設が整備されています。1期計画において、集客交流まちづくり拠点として旧大津公会堂の改修が行われ、地域活動の場やレストラン来客者によりにぎわいが創出されています。また、湖（うみ）の駅浜大津の整備によって、一層の集客の増加が見られ、これら拠点施設に加えて『湖岸エリア』と一体的な連携を図っていくことによって、『大津百町エリア』と『湖岸エリア』における来訪者の相互の流れを創ります。

琵琶湖及び湖岸とびわ湖ホール周辺一体は、琵琶湖に面し自然溢れる景観と環境が広がり中心市街地で最も特徴的なエリアとなっています。この魅力を生かした事業として、1期計画において、「なぎさ公園テナントミックス施設整備事業」を実施しオープンカフェを整備しました。また、「イルミネーション事業」や近年に「滋賀B級グルメバトル in 浜大津サマーフェスタ」など民間主体のイベントが活発に行われるようになっており、大きなにぎわいが創出されています。しかし、周辺への波及が十分でないことから、2期計画では民間主体のソフト事業と連携し、『湖岸エリア』において面的なにぎわいを創出する事業を展開しています。実現方策としては、湖岸エリアの公園、文化施設、観光施設、商業施設などにおいて、湖岸の魅力要素である「自然景観」・「環境」に「アート」・「文化」を加え、滋賀県の「美の滋賀」推進の取組と連携を図りながら全体を「美」というワードで結びつけた芸術作品の展示や催しなどを行う「湖岸エリア・アートプロジェクト」を実施していきます。



写真 1.1 湖岸公園活用ソフト事業



写真 1.2 湖岸エリア・アートプロジェクト



写真 1.3 イルミネーション事業



写真 1.4 イルミネーション事業

1.2.2 大津市中心市街地活性化協議会

(1) 湖岸デザインプロジェクト会議

第2期大津市中心市街地活性化計画では、その基本的な方針や事業を効果的に実施していくため、地域特性から3つのエリアを設定しています。その1つのエリアである「湖岸エリア」で、第2期計画の活性化目標である「琵琶湖岸・港における集客・交流機能の強化を図る」ために、プロジェクト会議として、大津市中心市街地活性化協議会内に設置されました。

平成25、26年度は、「水空間デザインプロジェクト会議」、「湖岸エリア・アートプロジェクト会議」としてそれぞれ活動を行い、平成27年度以降は「湖岸デザインプロジェクト会議」として統合を行っています。

湖岸デザインプロジェクト会議では、「美」をテーマとする一体的な活動を連続して行うことで、湖岸エリア全体を目的化し、地域イメージの向上によって集客力を強め、にぎわいを創出し、また、おまつり広場からなぎさのテラスの水辺空間において、人々が水に触れ、憩いを感じ、人と自然が共生する水空間の活用方を検討し、水空間デザイン（案）を提案することを目的としています。

(2) 水辺をとらえる研究会

水空間デザインプロジェクト会議では、新たな湖岸エリアの創造に向けた検討を進め、親しみある琵琶湖とまちが融合する水辺空間がもたらす『賑わい溢れる湖岸』を目指し、成安造形大学と滋賀県立大学と共同で研究を進めることを目的として「水辺をとらえる研究会」が設置されました。

水辺をとらえる研究会は、中心市街地活性化を目的としており、湖岸エリアのあり方や活用方策に関する提案は大津市中心市街地活性化協議会の水空間デザインプロジェクト会議が事業提案としてまとめました。

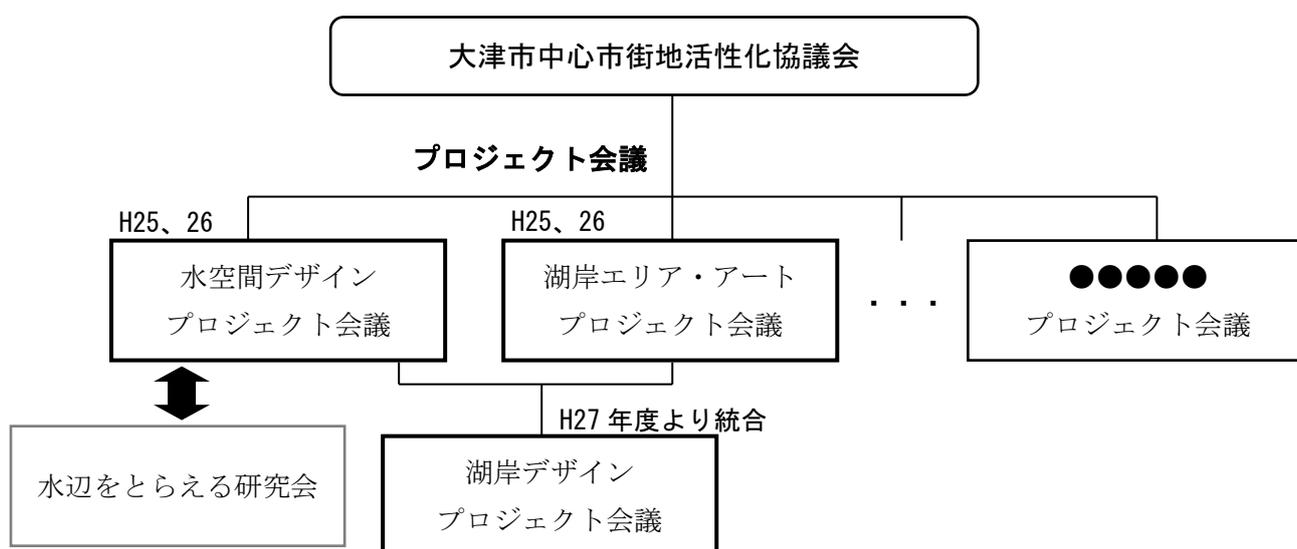


図 1.6 体系図

(3) これまでの活動経過

大津市中心市街地活性化協議会プロジェクト会議のこれまでの活動を以下に整理します。

プロジェクト名	水空間デザインプロジェクト会議
目的	琵琶湖を観光資源として戦略的にそのポテンシャルを引き出し賑わいの創出につなげるため、おまつり広場からなぎさのテラスにかけての琵琶湖湖上において、人々が水に触れ、憩いを感じ、人と自然が共生する水空間の創造を目指し、周辺の水辺環境に配慮した湖上の活用方策を検討し、水空間デザイン（案）を提案する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水空間の整備に関する事業計画（=水空間デザイン（案））の作成、提案 ・水空間整備にあたっての関係者との協議・調整
実績 (平成 25 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①湖岸エリアの現状把握（湖岸エリアの歴史、変遷を把握） ②水辺をとらえる研究会の開催（勉強会、フィールドワーク）
実績 (平成 26 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①水辺をとらえる研究会の開催（湖岸の活用方策の検討、水辺空間模型の作成） ②公開シンポジウム「大津湖岸なぎさ公園の水空間デザインを考える」開催

プロジェクト名	湖岸エリア・アートプロジェクト会議
目的	「美」をテーマとする一体的な活動を連続して行うことで、湖岸エリア全体を目的地化し、地域イメージの向上によって集客力を強め、にぎわいを創出する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県立大学との連携による湖岸エリアのランドスケープの検討 ・既存施設を活用するギャラリー・コリドーの調査研究 ・シンポジウムの開催 ・現代アート展覧会の企画・開催
実績 (平成 25 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①シンポジウムの開催（琵琶湖・芸術・文化-大津市湖岸エリアの将来像を考える-、県立大学生による作品プレゼンテーション等） ②びわ湖こどもアートセッション in 大津の開催・こどもを対象に「つくる まなぶ ふれる」をコンセプトとしたアート体験事業を実施
実績 (平成 26 年度)	①びわ湖こどもアートセッション 2014の開催「アートをつくる、アートをまなぶ、アートにふれる」*現代作家とともにアートをつくる*アートにふれる

プロジェクト名	「湖岸デザインプロジェクト」
実績 (平成 27 年度)	①大津市の許認可等関係課担当職員（都市計画、景観、公園、建築確認）との円卓会議開催（滋賀県立琵琶湖文化館のあり方について、同館の利活用に係る諸法令等の規制について） ②大阪市大正区現地調査実施「大正区が水辺に力を入れる理由」 視察先：壁紙屋本舗、尻無川河川広場、サンセット 2 1 1 7 ③報告書（提言）のとりまとめ （なぎさ公園おまつり広場～なぎさのテラスのエリアについて・滋賀県立琵琶湖文化館について）
実績 (平成 28 年度)	①大津湖岸なぎさ公園の水空間デザイン案作成 （滋賀県立琵琶湖文化館を中心にデザイン検討） ②滋賀県、大津市に対しての提案手法の検討、調整

■勉強会



■フィールドワーク



■カフェタイム



写真 1.3 第 1 回水辺をとらえる研究会 キックオフ 開催報告書

(4) 公開シンポジウム 大津湖岸なぎさ公園の水空間デザインを考える

公開シンポジウムでは、水辺をとらえる研究会より提案内容が発表されました。以下にシンポジウムの概要と提案内容の概要を整理します。

- 日 時：平成27年2月28日（土曜）
- 場 所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール3階研修室
- 参加者：26名（委員、事務局等関係者除く）

参加者内訳

団体名	人数
滋賀県総合政策部	1
滋賀県流域政策局	1
滋賀県教育委員会	2
大津市政策調整部	3
大津市都市計画部	2
(株)まちづくり大津	1
大津市中心市街地活性化協議会	4
一般参加	12

大津市中心市街地活性化協議会
水空間デザインプロジェクト

公開シンポジウム
大津湖岸なぎさ公園の水空間デザインを考える

賑わい×憩い
自然×文化
共創×対話

2015年2月28日(土)
13:30~15:30(開場:13:15)

場 所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール3階研修室

定 員：50名(事前申込制)
※申込分超過した場合は、抽選により1名1名を優先してご招待させていただきます。

参加費：無料

【講師】
13:30 主催者挨拶
(安藤 孝典：大津市中心市街地活性化協議会 会長)
13:35 基調講演
「賑わいを生む水辺空間の活用と良質な景観形成に向けて」
講師：松岡 拓公雄
(滋賀県立大学環境科学部環境デザイン学科教授)
14:20 休憩
14:35 水空間デザインプロジェクトの検討経緯について
(山崎 一：水空間デザインプロジェクト総務リーダー)
14:45 作品プレゼンテーション
(講師：石川 真 (滋賀県立大学の環境デザイン学科研究員))
(講師：滋賀県立大学環境科学部環境デザイン学科 学生
+ 滋賀県立大学環境デザイン学科 学生)
15:30 終了

松岡 拓公雄 (まっおか たけお)

名前・連絡先をご記入のうえ、事務局へFAXまたはメールにてお申込み下さい。

主催：大津市中心市街地活性化協議会 後援：大津市
事務局・問合せ先：(株)まちづくり大津
TEL: 077-523-5010 (平日9:00~17:00)
FAX: 077-514-7600 FAX: 077-514-7600 申込ごとの返信はございません。
Email: info@machidukuri-otsu.jp

図 1.7 開催案内

○ 基調講演

「賑わいを生む水辺空間の活用と良質な景観形成に向けて」

講師：松岡 拓公雄 滋賀県立大学教授



写真 1.4 基調講演

- 「水辺をとらえる研究会」から作品プレゼンテーション
進行：石川 亮 成安造形大学附属近江学研究所研究員

<p>成安造形大（1案）・・・『自然のふところ公園計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の屋根の上も公園の一部として活用する。 ・琵琶湖文化館を地盤だけを残し、新しいランドマークとなるような施設に建てなおす。 <p>『カフェスペース』…公園で遊んだ人や周辺のオフィスで働く人が一息つく場所。</p> <p>『市民の寄付で成り立つ小さな図書館』⇒ 読まなくなった本や絵本を寄付してもらい、地域に開いた図書スペースを設ける。</p>
<p>滋賀県立大学（2案）</p> <p>①『水辺の散歩道』…それぞれの敷地に異なった機能・空間をつくり、多様なアクティビティを生み出す場所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おまつり広場…イベントを開く場、日常と非日常いつでもまちの憩いの場に。 ・多目的広場はイベント時にはテントを張り、屋台の商品を食べる場に。 ・丘をもうけてイベント時には観客席として使用する。 ・なぎさ公園…景色を楽しんだり広場で遊んだり、イベントにも対応する可変空間。 ・琵琶湖文化館…リノベーションし、活用する。湖岸利用者が自然と集う大津の文化を発信する、休憩スペースとする。文化館まわりに木デッキを設け新たな動線をつくる。 ・1階：情報メディアセンター、2階：カフェ、多目的スペース、3階：展望台、集会室 <p>②『みちみちる』…動線の整備によってたくさんの人に満ち、たくさんの出会い、出来事が満ちてくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドスケープ…帯状の芝生空間に起伏をつけて丘のようにし、そのなかに各機能を盛り込む。 ・丘の中にはトイレ、駐車場、カフェ、サイクルステーションを設ける。 ・丘（屋根）は上り下りが可能で、眺望を楽しんだり、子どもの遊び場にもなる。 ・サイクルスタンドはデザイナーが考案した、オブジェのようなサイクルスタンドが開発されている。 ・水面…浮き栈橋を作り、水上を歩くことができる道を作る。同時に浮き栈橋の下でイケチョウ貝の養殖を行う。イケチョウ貝は、水質浄化機能を持つと共に真珠を生産する。⇒ 環境に配慮。 ・琵琶湖文化館…波の形をイメージし、琵琶湖ホールとの統一性を考えた。内部は銭湯、食事、インフォメーションなどがあり、旅の疲れを癒したり、交流の場とする。

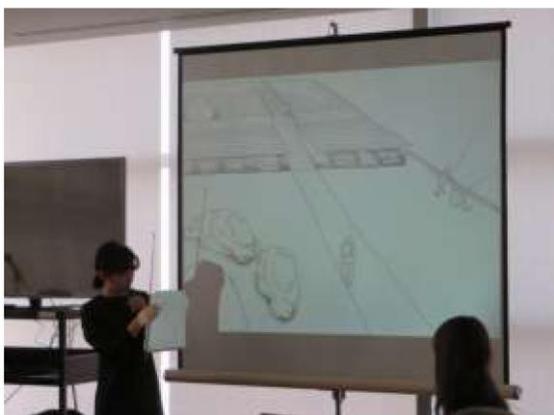


写真 1.5 作品プレゼンテーション

1.2.3 平成27年度湖岸デザインプロジェクト会議報告書（平成28年3月）

平成27年度にこれまでのプロジェクト会議における研究や水辺をとらえる研究会の発表をもとに、「なぎさ公園おまつり広場～なぎさのテラスのエリア」とエリア内の中心的な建造物である「滋賀県立琵琶湖文化館」についての提言を行ないました。

報 告 書



<湖岸エリア全体>

平成28年 3月

大津市中心市街地活性化協議会
「湖岸デザインプロジェクト」

<滋賀県立琵琶湖文化館>

1 「ピワイチ」の拠点
→スタート地点（ゴール地点）とする

拠点としての施設整備をする。

2 ウォーキング、ジョギング、サイクリングに利用されることが大変多い利用者のための施設を設置する。

- ウォーキングステーション
- ランナーズステーション
- ショールーム
- サイクルステーション など

3 琵琶湖文化館の地点で動線や公園（空間）の連続性が途切れる歩行者や自転車利用者等がいったん狭隘な歩道へ出ないといけない

デッキ、栈橋、歩道の拡幅等により、**動線を確保し、連続した公園（空間）にする。**

（琵琶湖文化館は次章参照）

4 年間を通じてイベントの開催できる場所を確保し、インフラを整備する

1 建築物の管理者である滋賀県が、上部（建築物）を撤去する



2 大津市が引き継いで公園として占有し、滋賀県が新たに占有許可する

3 公園には、大津市や民間企業が新たな構築物を建設し、湖岸エリアのイベントや商業活動の場などに活用する

具体的な機能としては、

- A 湖上カフェレストラン
- B 展望デッキ（テラス）
- C 小さな図書館
- D 銭湯 など

（詳細は添付資料のとおり）

第2章 なぎさ公園の現状と課題

2.1 なぎさ公園の現状、問題点、課題

2.1.1 歴史的背景

古くから琵琶湖の中心であった大津港が隣接しており、現在も大津港を拠点として、多くの遊覧船等が航行しています。平成7年には、「都市景観100選（建設大臣賞）」を受賞しており、地球環境関西フォーラムが選定の関西自然に親しむ風景100選に選出されており、琵琶湖と遠景の山並みをもたらす景観は大変すばらしいものです。

現状のなぎさ公園に至る整備がおこなわれた経緯は、昭和55年度の都市公園事業「大津湖岸なぎさ公園」の構想の策定・検討が行われた後、昭和58年度策定の大津市総合計画基本計画によって、なぎさ公園の基本計画が策定されたことによって始まっています。

なぎさ公園の基本計画の課題として、経済の発展と誇張に伴って大規模な埋立てが過去に行われ、市民と湖水との関りを遠ざけてしまったことの反省から、湖岸に人工なぎさを復元して湖岸の環境整備を行い、市民はもとより広くここを訪れる人々に水に親しんでもらえる、湖都大津にふさわしい湖辺空間の創設を図ることを目的としていました。

具合的な課題として、次の5つが挙げられていました。

- ・大津市中心部の湖岸の親水性の回復を図り、市民のなぎさへの関心呼び戻す。
- ・湖辺に豊富な緑を創設し、湖岸の景観と環境を保全する。
- ・過密都市のオープンスペースを湖岸に創設し、都市の防災と市民及び広域利用を目的としたレクリエーションが可能となる場の創設を図る。
- ・背後市街地と一体的な計画とし、汀線の整備を都市構造の一部としてとらえる。
- ・湖の管理と両立し得る計画とする。

また、大津湖岸なぎさ公園整備事業は、大津市総合計画の主題が「人が輝くふるさと都市大津をめざして」と題し、「人間性の尊重」、「市民自治の確立」、「環境の保全と創造」を基本理念とし、「誰もが喜び分かち合う湖都」の実現をめざすことから、水辺交歓都市実現として、次の3つの理念が挙げられています。

- ・豊かな自然の保全・継承
- ・水と緑の都市空間の創造
- ・人と水と緑の交歓の推進

この理念の精神が大津市域における河川整備や河川緑地整備を実施する根幹的な理念であることをとらえ、なぎさ公園事業に最大限取り入れられることとしたものです。

2.1.2 大津市の各種構想・計画におけるなぎさ公園の位置づけ

大津市におけるまちづくりの基本構想や具体的な取組み方針等を定めた「大津市総合計画2017」、大津市の土地利用方針を定めた「第5次大津市国土利用計画」及び、都市計画に関する基本的な方針を定めた「大津市都市計画マスタープラン」について、なぎさ公園の位置付けを整理します。また、これらの計画を上位・関連計画とし、緑地の保全や緑化の推進に関してその将来像、目標、施策などを定めた「大津市第4次緑の基本計画（案）」についても同様に整理します。

まちづくりの基本構想	なぎさ公園の位置づけ
大津市総合計画 2017	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖を始めとする自然環境の保全
第5次大津市国土利用計画	<ul style="list-style-type: none"> 湖岸の特性に応じた保全及び活用 市街地との有機的なつながりの形成 琵琶湖とのふれあいの場としての活用
大津市都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> 拠点機能の充実と魅力の向上 多彩な地域資源に憩い、楽しさが感じられる回遊性の高い交流環境を創る <p>具体的：湖岸の特性を生かしたにぎわい創りや、都心エリアにおける賑わいの創出のため、民間活用により、カフェや飲食店の出店など、これまでと異なる手法による利活用についての検討を行う。</p>
大津市第4次緑の基本計画(案)	<ul style="list-style-type: none"> 緑の骨格の保全 都市公園などのマネジメントの強化と多機能化 協働による緑のまちづくりの促進

2.1.3 現状の施設配置状況



- JR 大津駅や大津港からアクセスしやすい。
- イベントに利用できる広場がある。
- 東側に琵琶湖文化館が立地。
- 休息施設のベンチが設置。
- 公衆便所、駐車場が設置。



芝生広場



琵琶湖文化館

- 滋賀県立芸術劇場やなぎさテラスが立地。
- 芸術・文化・風景が親しめる。
- 休息施設のベンチが設置。
- 公衆便所、駐車場が設置。



なぎさテラス



駐車場

- 湖岸に大規模マンションや郊外型大規模商業施設が立地。
- 公園の敷地形状が細長い。
- 芝桜や桜の木が植栽。
- 休息施設のベンチが設置。
- 公衆便所、駐車場が設置。



遊歩道と芝生広場



休息施設

- 湖面を通して山並みやまちなみを望められる。
- 桜の木が植栽。
- 休息施設のベンチが設置。
- 公衆便所、駐車場が設置。



琵琶湖の眺望



広場

- なぎさ公園唯一の砂浜が近江大橋まで続く。
- 砂浜の背後には松並木が続く。
- レストランと市民プールが立地。
- 休息施設のベンチが設置。
- 公衆便所、駐車場が設置。



ビーチ



レストラン ヴェルツブルク

2.1.4 景観

日本一の湖である琵琶湖を有する大津市は、琵琶湖と雄大な自然景観を形成する比良山系、比叡山から音羽山に至る山並みによって形成される大景観は、人々に潤いと安らぎを感じさせる貴重な自然景観であるとともに、市民が大津市らしさを感じる重要な景観となっています。

大津市景観計画では、「水と緑の大景観を守る」「古都大津の歴史的景観を守り、育てる」「自然と人々の営みが創り出してきた美しい景観を守り、育てる」「大津の顔となる景観を創る」「個性ある地域景観を創り、育てる」という5つの基本方針の基つき、景観づくりを行っています。その中で、なぎさ公園は市街地水辺景観地区と定められ、良好な景観の形成を推進しています。



写真 2.5 なぎさテラス



写真 2.5 サンシャインビーチ

2.1.5 利用状況（利用者数、目的や利用の仕方、利用者の動き、利用者層）

滋賀県が行ったアンケート調査では、琵琶湖を訪れる人は年に1,2回程度訪れる人が最も多く、月に1,2回が次に多くなっています。琵琶湖との関わり方では、花火大会やドライブなどのために湖を訪れるという回答が最も多く、次いで散歩、ジョギング、サイクリングなどのために湖岸を訪れるという回答が多くなっています。そのため、利用用途は主に運動を行う場としての利用が多くみられており、公園の一部または全体を通過するように利用しています。また、釣りや休息、子供の遊び場としても利用されており、特定のエリアで利用を行っています。

利用者層は利用用途によって傾向がみられ、釣りでは特に男性の若年層から中年層まで幅広く利用しています。散歩や休息では中年層から高齢層が多く、ジョギングやサイクリングでは中年層が多くみられます。子供の遊び場として、幼児や子育て世代の利用が多くみられます。

またなぎさ公園が JR 大津駅やびわ湖浜大津駅から徒歩で来ることができる立地にあること、名神高速道路 IC から近いことから、京都や大阪などの遠方からの利便性も高く、イベントやドライブでの利用がなされていると考えられます。

表 2.1 琵琶湖を訪れる頻度

項目	人数(人)	割合(%)
ほぼ毎日	23	6.6
週に1,2回	55	15.7
月に1,2回	93	26.5
年に1,2回	133	37.9
ほとんど訪れない	47	13.4
合計	351	100

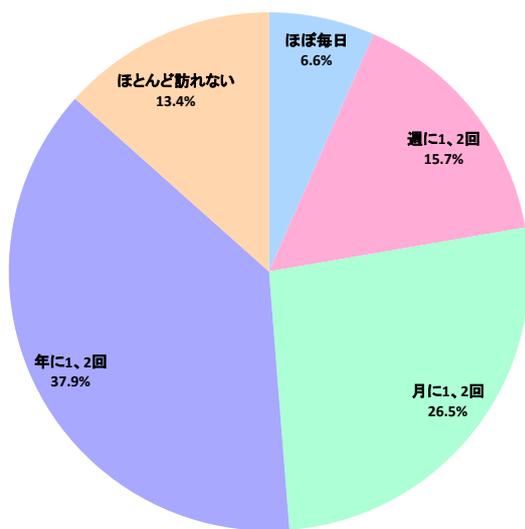


図 2.1 琵琶湖を訪れる頻度

表 2.1 琵琶湖との関わり方

項目	人数(人)	割合(%)
花火大会やドライブなどのために湖を訪れる	184	52.4
散歩、ジョギング、サイクリングなどのために湖岸を訪れる	152	43.3
湖で獲れた湖魚を使った料理を食べる	110	31.3
水鳥や水生生物などの自然観察のために湖を訪れる	80	22.8
キャンプやバーベキューなどのために湖岸を利用する	49	14.0
関わっていない	47	13.4
湖岸清掃やヨシ刈りなどのボランティア活動に参加する	44	12.5
湖に関わる地域の伝統的な祭りや行事に参加する	40	11.4
魚とりや魚釣りのために湖を訪れる	35	10.0
湖上遊覧など湖上交通の場として利用する	34	9.7
関連する調査活動や講演会、説明会などに参加する	32	9.1
湖水浴、ボート遊び、水上バイクなどのために湖を訪れる	30	8.5
その他	22	6.3
野菜洗いや洗濯など日常生活において湖水を利用する	9	2.6
漁業・観光業・環境業務など職業として関わる	4	1.1

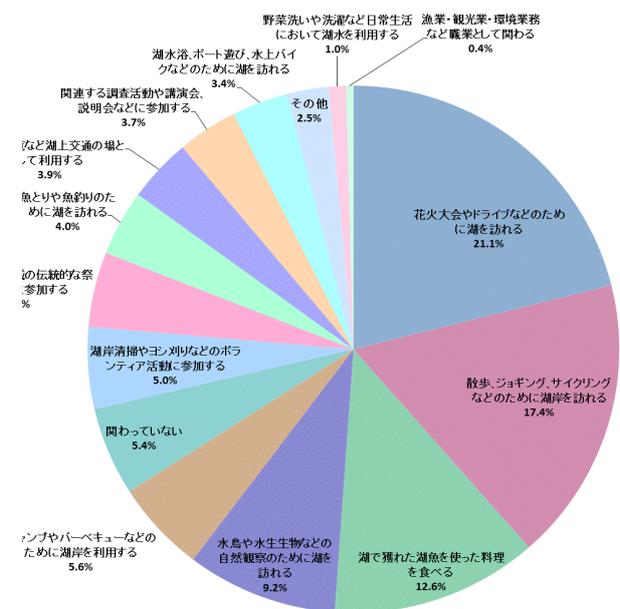


図 2.2 琵琶湖との関わり方

参照：琵琶湖の保全及び再生についてのアンケート調査：県政モニター396人対象、回答数351人

2.1.6 市民アンケート調査結果

平成29年11月に実施されたなぎさ公園の利活用に関するアンケート調査（大津市実施）では、利用目的で運動(散歩)が最も多い結果が出ました。また、問題点では、なぎさ通り沿道に飲食店が少ないことが半数近い回答であり、琵琶湖の魅力を活かしきれていないことが次に多い結果となりました。なぎさ公園に何を求めるかでは、軽い飲食ができる施設が半数近い回答であり、また琵琶湖の景観を活かした広場が次に多い結果となりました。

これらの結果から、なぎさ公園には飲食施設などが無いことが問題視されていることが考えられます。また琵琶湖の景観などの魅力を効果的に活用する仕組みや取組みが必要であると考えられます。

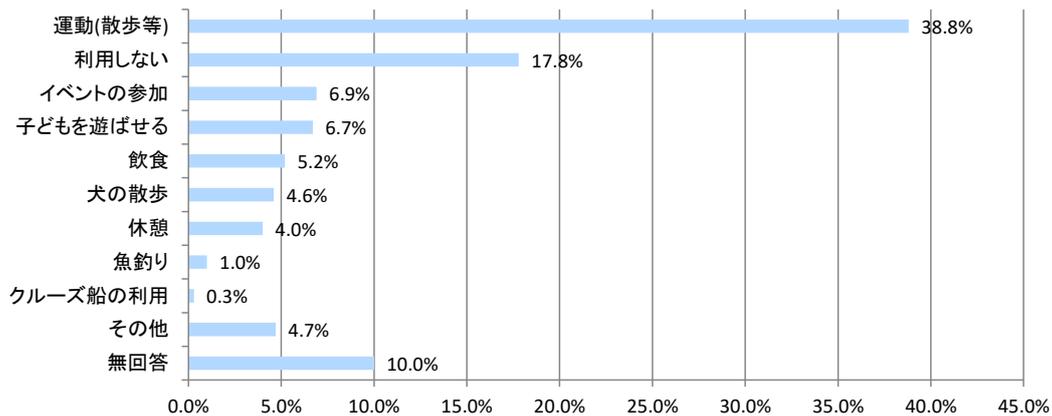


図 2.3 なぎさ公園の主な利用目的

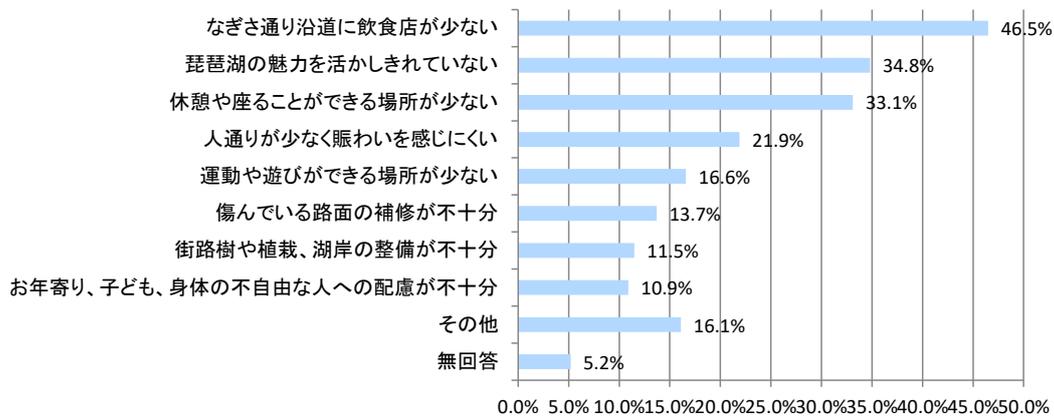


図 2.4 なぎさ公園の問題点

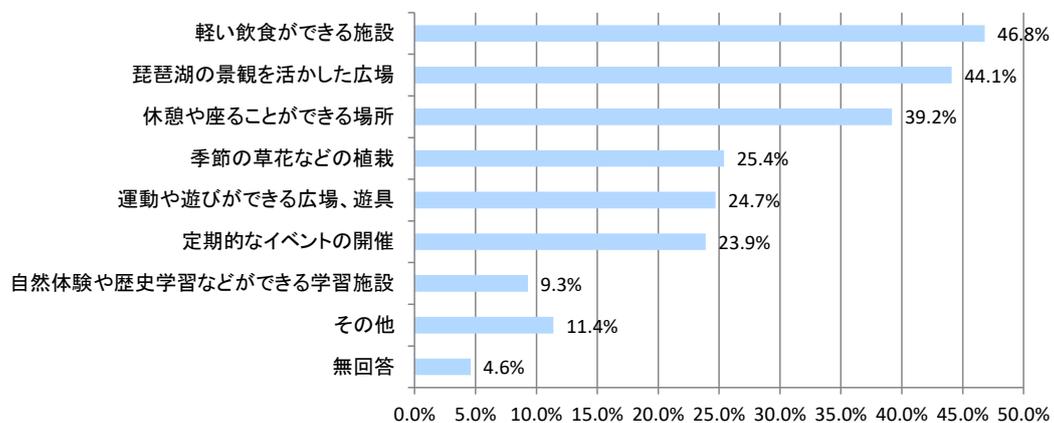


図 2.5 なぎさ公園に何を求めるか

2.1.7 エリア別の現状・問題点の整理及び課題の抽出

(1) エリア別の現状・問題及び課題

なぎさ公園の現状やアンケート調査を踏まえ、エリア別の現状・問題点、課題を整理します。

エリア	現状・問題	課題
湖岸エリア(おまつり広場)	<ul style="list-style-type: none"> 中央大通り正面のエントランス広場は、なぎさ公園の玄関口となるものの、ゲート的な空間にはなっていません。 大津港や中央大通り正面のエントランス広場と東側のおまつり広場との連続性が植栽等により分断されています。 広場と駐車場の間に川が流れ、橋梁があるものの、主動線が階段となっており、公園の連続性を妨げています。 おまつり広場ではイベント利用がない場合は、賑わいのない空間になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 大津港や大津駅からの動線の結節点となり、人々が集まる交流拠点、なぎさ公園や琵琶湖眺望のエントランスとしての空間づくりが必要となります。 公園のゲートからイベント広場までの連続性、一体感を確保した広い空間とすることが必要となります。 駐車場地区との間の橋梁の主動線をスロープに変えることで移動しやすい地区間動線の確保が必要となります。 平常時においてもにぎわいを創出するため、人が集まり滞留する仕組みが必要となります。
打出の森	<ul style="list-style-type: none"> なぎさのテラスの飲食店等によりにぎわい、たまりのある空間となっています。 琵琶湖文化館については、文化館機能が廃止されており、敷地を含めた今後のあり方について方針を定める必要があります。 動線や公園空間の連続性が途切れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 広場への木製のデッキの増築や地被植物の植樹などにより、飲食店からの琵琶湖の眺望やたまり空間整備に配慮することが必要となります。 琵琶湖文化館を取り壊し、跡地利用を図るとともに、周辺の公園空間としての動線を確保することが必要となります。
なぎさのpromenade	<ul style="list-style-type: none"> 約1kmにわたって続くpromenadeであり、単調な景観となっています。 広場には、沿岸の住民等の乳幼児を連れた母親、家族等の利用があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽による四季折々の花の演出等により、動線上の空間に変化を持たせることが必要となります。 子ども向け遊具を設置するなど、子どもも楽しめる空間整備が必要となります。
市民プラザ	<ul style="list-style-type: none"> 休憩スペースや木陰等がなくゆっくりと風景を楽しめる空間になっておらず、ほとんど使われていません。 スロープの壁や照明に、スケートボード利用によるタイルの割れや傷が多くみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 木陰の創出など、ゆったりと眺望できる空間整備が必要となります。 電気設備などを整備し、使いやすいようにする必要があります。 スケートボードの利用によるタイル等の破損がみられるため、注意喚起や遊ぶ場所の指定を行う必要があります。
サンシャインビーチ	<ul style="list-style-type: none"> 湖水浴は現在利用がなく、砂浜があれた状態になっており、雑草が茂っています。 期間限定でBBQ場の利用により賑わいはあるものの、平常時の利用者がすくない現状となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 湖岸に流れ着くごみ等の漂流物の清掃や雑草の伐採を行う必要があります。 通年を通しての湖岸ができるよう遊具設置などの遊び場を創出する必要があります。
なぎさ公園全体	<ul style="list-style-type: none"> 自転車やジョギングなど、なぎさ公園を一体的に利用する人々が多くみられるが、琵琶湖に流れる河川などによって公園の連続性が分断され、一部では遊歩道が途切れ、歩道を利用する箇所が見られます。 遊覧船はツアーの団体客が多く利用していますが、遊覧船のみの利用で、公園利用につながっていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園内の連続的な動線を確保するため、遊歩道の新設や拡幅等の整備を行う必要があります。 湖岸エリアにおける拠点整備を進めることで、大津港との一体利用の仕組みづくりを行う必要があります。



写真 2.6 現地調査（第3回湖岸デザインプロジェクト会議（H30.1.5））

(2) エリア別の概要と問題



エリア	おまつり広場	打出の森	なぎさのプロナムード	市民プラザ	サンシャインビーチ	全体まとめ
概要	JR 大津駅や大津湾からのアクセスが良い。広い敷地が確保されており、イベント等などのにぎわいのエリアとなっている。	びわ湖ホールやなぎさテラスが立地しており、芸術や文化に親しみながらくつろぐエリアとなっている。	湖岸には大規模マンションや、大規模商業施設が立地している。細長い敷地形状は散歩等に利用することができ、ゆったりとしたエリアとなっている。	比叡・比良の山並みや琵琶湖大橋・近江大橋を望むことができる展望エリアとなっている。	広い砂浜が続き、水とたわむれる親水広場エリアとなっている。砂浜の背後には松並木が広がり、ヴェルツブルクハウスや市民プールが立地している。	細長い形状をしており、琵琶湖や比叡・比良の景観を楽しむことができる。
設置施設	公衆便所、駐車場	公衆便所、駐車場、レストラン	公衆便所、駐車場	公衆便所、駐車場	公衆便所、駐車場、レストラン	公衆便所、駐車場、レストラン
利用状況	イベントの開催、散歩、釣り、ジョギングなど	ランチ時になぎさテラスの利用者、散歩、ジョギングなど	子どもの遊び場として利用、散歩、ジョギングなど	散歩、ジョギングなど	レストランの利用、散歩、ジョギングなど	散歩やジョギング、釣りといった利用が多くみられる。
問題点	<ul style="list-style-type: none"> 東西への視覚的な連続性がない。 公園内の橋梁の主動線が階段で移動性に乏しい。 イベント利用がないときは、賑わいが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖文化館については、文化館機能が廃止されており、敷地を含めた今後のあり方について方針が定まっていない。 歩行者動線が分断されている。 ゲート施設の景観が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単調な景観となってしまっている。 昇降施設が有効活用されていない。 歩行者動線が分断されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 休憩スペースや木陰等がない。 スロープの壁や照明のタイルに割れや傷がみられる。 電気施設を設置されていない。 桜の植栽が中途半端になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂浜があれた状態になっており、雑草が茂っている。 オフシーズンの利用者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各エリア間で遊歩道が途切れており、エリア間での移動がしにくい。

2.1.8 各エリアの整備当時のコンセプト

琵琶湖は経済の発展と膨張とともに大規模な埋立がなされ、市民と湖水との係りを遠ざけてしまったことの反省から、『大津市中心部の湖岸に人工なぎさを復元して湖岸の環境整備を行い、市民はもとより広くここを訪れる人々に水に親しんでもらえる、滋賀県の顔になる湖都大津にふさわしい湖辺空間を創設すること』を計画の目的としています。

具体的な計画の課題としては、下記の事項があげられていました。

- ①大津市中心部の湖岸の親水性の回復を図り、市民のなぎさへの関心を呼び戻す。
- ②湖辺に豊富なみどりを創設し、湖岸の景観と環境を保全する。
- ③過密都市のオープンスペースを湖岸に創設し、都市の防災と、市民及び広域利用を目的としたレクリエーションを図る。
- ④後背市街地と一体的な計画都市、汀線の整備を都市構造の一部としてとらえる。
- ⑤湖の管理と両立し得る計画とする。

第3章 なぎさ公園の賑わい創出に向けた方針

3.1 なぎさ公園活用コンセプト

なぎさ公園の現状と課題、これまでの取り組み等を踏まえ、今後のなぎさ公園の賑わい創出のあり方に関するコンセプトを設定します。

3.1.1 なぎさ公園整備のコンセプト

コンセプト

雄大な琵琶湖そして比叡比良山系を目前に、地の利を活かし
様々な人が集い活動を行える場所とすると共に、その活動には
社会の課題解決の一助となり得るべく精神が内包されているものとする。

- ・ 雄大な琵琶湖そして比叡比良山系を目前に、水と食と祈りの文化を育んできたこの地の歴史的特性を活かします。
- ・ 水辺のもつ、様々な環境特性（眺望、風、音、空間）を守り活かし、様々な人が集い、様々な活動が行える公園づくりを目指します。
- ・ 持続可能な社会の実現に向け、大小を問わず、社会の課題解決を目指した活動が実践的に取り組まれる（或いは盛り込まれる）場所とします。
※2015年9月の国際サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標「SDGs（エスディーゼズ）」を本地での活動の拠り所とする。
※本地では、SDGs、17のGOALのうち、「3, 5, 7, 8, 11, 14, 15」の実行を目指す。
関連ワード：健康、バリアフリー、省エネ、生きがい、障がい者雇用、環境、地産地消 等
- ・ 地域の住民をはじめ、国内外の観光客など、多様な利用者が集う場所づくりを目指します。



図 3.1 コンセプト概念図

3.1.2 利活用の基本方針

琵琶湖の多様性、公園機能の多様性を活用し、様々な利用者が嗜好に合わせて活動・体験ができる「なぎさ公園」を目指し、実現に向けた2つの基本方針を示します。

(1) 場の環境特性を活かし、湖岸公園のポテンシャルを最大化

- ・湖岸の公園として立地特性を活かし、琵琶湖や比叡・比良の山並みの眺望、湖からの風、香り、音、食の恵みなどの水辺の環境特性、水辺としてのメリットを活用した公園整備を行います。
- ・人と自然が共生する水辺空間の創造を図るため、自然を五感で感じられる水辺に親しめる空間づくりを行います。
- ・琵琶湖の豊かな自然環境と河川や道路との連続性に配慮し、水と緑のネットワークの拠点となるよう環境に配慮した空間づくりを行います。
- ・エリア内に新設される建物や構造物は、水辺環境、自然環境に配慮した色彩・形態とし、詳細なデザインコードを設定します。

(2) 多面的な公園機能の提供を図り、多様化する公園ニーズに対応し、恒常的な賑いを創出

- ・散策、語らい、飲食などの日常的な利用から、文化、アート、スポーツなどの活動やイベントなど、様々な利用者ニーズに対応できる空間をデザインし、賑わい空間の創出を図ります。
- ・なぎさ公園全体の中で、静と動の空間の創出を図り、静の空間として昼休みの休憩・ランチや散歩の休憩、読書などほっこりするシーンや、動の空間としてジョギングやサイクリング、イベントなどアクティビティのシーンを形成します。
- ・なぎさ公園は琵琶湖に沿って細長い形状となっている地形的特性を踏まえ、公園周辺の施設配置や利用状況に配慮したエリア区分を行い、エリア特性に応じた多様な賑わい空間の創出を図ります。
- ・地域の住民をはじめ、国内外の観光客など多様な利用者など、それぞれの日常・非日常の嗜好に合わせた様々な活動シーンの中で、自宅の庭の一部のように、また、非日常のイベントや思い出の残るスポットのように活用できる空間の創出を図ります。

3.2 エリア別の考え方

3.2.1 湖岸エリア（おまつり広場）

○賑わいの空間

- ・ 大津駅やびわ湖浜大津駅からのアクセスの良さから眺望やアクティビティ、イベント等を目的とした観光客のほか、大津市民、近隣市民まで多くの人々が利用しています。
- ・ おまつり広場からなぎさテラスまでの一体的・連続的な空間を確保し、イベント、文化、アート、スポーツなどの様々な賑わいを創りだすエリアとします。
- ・ なぎさ公園の玄関口として、公園全体のガイダンス機能をもち、多くの人々が利用できる広場、スポーツや活動の拠点、交流の場を創出する飲食店等で構成する空間とします。
- ・ 琵琶湖文化館の跡地を活用することで琵琶湖の眺望を満喫できる湖に浮かぶ文化的空間として、再生を図ります。

3.2.2 打出の森

○文化的なゆったりとしたたまり空間

- ・ 打出の森は、大津市民を中心としたびわ湖ホール利用者や日常の飲食店利用者が利用しており、なぎさテラスの飲食店等を中心に賑わい、たまりのある空間を形成します。

3.2.3 なぎさのプロムナード

○くつろぎのプロムナード空間

- なぎさのプロムナードは、大津市民を中心とした大規模店舗利用者や大規模マンション居住者など、家族連れ、高齢者、ペットの散歩利用者などが利用しており、のんびりとくつろぐ空間とします。
- ・ 約1kmにわたって続くプロムナードが単調にならないように、植栽、花等で変化を与えた変化を楽しみながら散策できる空間とします。

3.2.4 市民プラザ

○ゆったりと人々が憩う空間

- ・ 市民プラザは、観光客のホテル宿泊者や野外コンサート場利用の市民が利用しており、観光客や市民が交流し、休憩スペースから琵琶湖の眺望をゆっくりと楽しめる空間とします。

3.2.5 サンシャインビーチ

○遊びによる賑わいある空間

- ・ 大津市民や周辺市民によるバーベキューやアクティビティを楽しむ家族連れが利用しており、子どもの遊具広場など、シーズン以外の利用も可能とする空間とします。

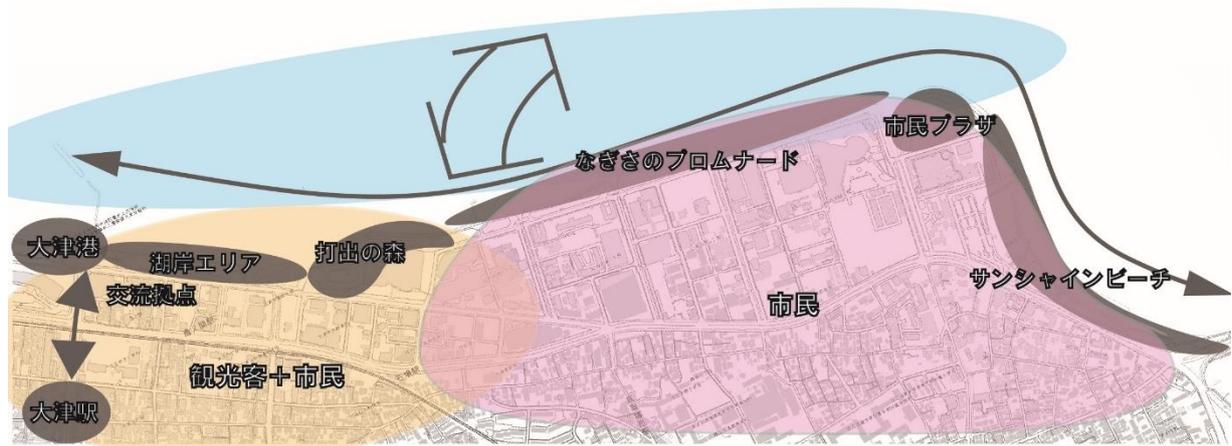


図 3.2 エリア別整備の考え方

第4章 湖岸エリアの賑わい創出に向けた提言

4.1 湖岸エリアの重要性

このエリアは、古くから琵琶湖の中心であった大津港が隣接し、現在も大津港を拠点として、多くの遊覧船等が航行しています。商業施設や文化施設も集積しており、前方に広がる景色は、湖とは思えない景観となっています。琵琶湖の中でも南湖は幅が狭いが、海のような眺めで、このエリアからの視界は前方 180 度湖面や湖岸が見渡せ、西には大津港から唐崎、坂本、雄琴、堅田、正面には琵琶湖大橋、東は草津市や守山市の湖岸が眺められます。

エリアへのアクセス状況として、JRや京阪電車の駅から徒歩で行くことができ、名神高速道路の大津インターチェンジからも近く、京都や大阪から訪れるには交通至便のエリアとなっています。

4.2 湖岸エリアの整備に関する関連法令の改正

4.2.1 琵琶湖敷地の占用許可基準の改正

近年、イベント施設やオープンカフェの設置など水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりを目的とした河川敷地利用に対する要請が高まっています。

このため、琵琶湖敷地においても、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とし、都市再生や地域の活性化等に一層寄与すべく、「琵琶湖敷地の占用許可基準」が改正されました。

この改正は、治水上の観点などを踏まえ、個別に指定する区域（都市・地域再生等利用区域）において河川敷地の占用許可を受けることができる占用主体や占用施設の範囲を一部拡大するものとなっています。

この基準の改正により、都市及び地域の再生等の観点から、水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりに寄与し、地域のニーズに対応した琵琶湖敷地の多様な利用が可能となりました。

名古屋市（一級河川 堀川）

概要	納屋橋地区の遊歩道や親水広場等の河川敷地を有効に活用することで、都市にうるおいと活気に満ちた水辺空間を創出し、にぎわい創出や魅力あるまちづくりをすすめるため、オープンカフェやイベントを実施。	イベント利用 (堀川フラワーフェスティバル・500人大会場)
河川管理者	名古屋市長	
区域名称 (主な利用)	納屋橋地区(オープンカフェ、イベント利用)	
河川名	堀川	
指定範囲	錦橋～天王崎橋	
指定日	H24.3.1 (H27.4.1変更)	
占用者	(公益財団法人) なごや建設事業サービス財団	
占用施設	オープンカフェ等、イベント等の実施に必要な施設	
合意方法	堀川水辺活用協議会納屋橋地区部会	
許可期間	3年	

オープンカフェ 19

図 4.1 河川空間のオープン化の事例

4.2.2 都市公園法の改正

近年は社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景に、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限引き出すことを重視する傾向にあります。そのような背景から、都市公園の再生、活性化を推進するため、国では都市公園法の改正が行われています。

都市公園法の改正に伴い、公募設置管理制度(Park-PFI)の創設、PFI 事業の設置管理許可期間の延伸、保育所等の占用物件への追加(特区の全国措置化)、公園の活性化に関する協議会の設置、都市公園の維持修繕基準の法令化において、従来の都市公園法からより柔軟な制度の適用に向けた変更がなされています。

<p>公募設置管理制度</p>	<p>都市公園において、飲食店、売店等の公園施設(公募対象公園施設)の設置または管理を行う事業者を、公募により選定する手続きのことで、事業者が設置する施設から得られる収益を公園設備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用されるものです。</p>
<p>PFI 事業の設置管理許可期間の延伸</p>	<p>都市公園における PFI 事業は主に大規模施設で活用されており、事業に計画期間が長期にわたるものが多いことから、PFI 事業により公園施設を整備する場合の設置管理許可期間を PFI 事業の契約期間にあわせて延伸することで、事業者の長期的事業運営を確保し、より多くの民間参入を促進するものです。</p>
<p>保育所等の占用物件への追加(全国特例の全国措置化)</p>	<p>国家戦略特区法改正により、特区内の都市では都市公園における占用許可特例として保育所等の設置が可能とされ、大気児童解消の取組み強化に向けて、都市公園における保育所等の設置について、オープンスペース機能を損なわない範囲で、特区以外の都市においても可能とするものです。</p>
<p>公園の活性化に関する協議会の設置</p>	<p>立地条件が良いにもかかわらず、十分利用されていない公園もあるのではないかと、ボール遊び禁止、バーベキュー禁止など一律禁止ではなく、公園を利用する地域住民等と公園利用のローカルルールを決めていく仕組みがあっても良いのではないかと等の問題意識から、公園管理者は、都市公園の利用者の利便の向上に必要な協議を行うための協議会を組織することができるようにしたものです。</p>
<p>都市公園の維持修繕基準の法令化</p>	<p>供用中の都市公園のうち設置から 40 年以上経過したものが平成 26 年度末で約 16%あり、20 年後には約 6 割に達する見込みの上、遊具については設置から 20 年以上経過したものが約 5 割に及ぶことから、都市公園の維持修繕基準の規定を設け、適切な時期に点検を行い、必要な措置を講ずることを義務付けることにより、予防保全による長寿命化・安全対策を徹底させるものです。</p>

4.3 湖岸エリアの賑わい創出に向けた提言

湖岸エリアの賑わい創出に向けて、「琵琶湖文化館地区」、「おまつり広場地区」、「駐車場地区」の3地区に区分し、それぞれのエリアの整備内容について、また、全体の整備手法について次のとおり提言します。

(1) 琵琶湖文化館ゾーン（親水眺望拠点）

- ・琵琶湖文化館跡地を活用し、湖に浮かぶ特別な空間として、湖や美しい写真集などのテーマを持った図書館を整備し、湖を眺めながらのんびりと読書ができる文化的な空間を整備します。
- ・水の上の建築物として、琵琶湖を背景に写真スポットとなるような建築デザインに配慮するなど、湖のフォトスポットとなる空間を整備します。
- ・湖上に、多目的に活用できるステージを整備します。
- ・駐車場地区、琵琶湖文化館地区、なぎさテラスの連続性を確保するため、道路側に遊歩道（デッキ）を整備します。

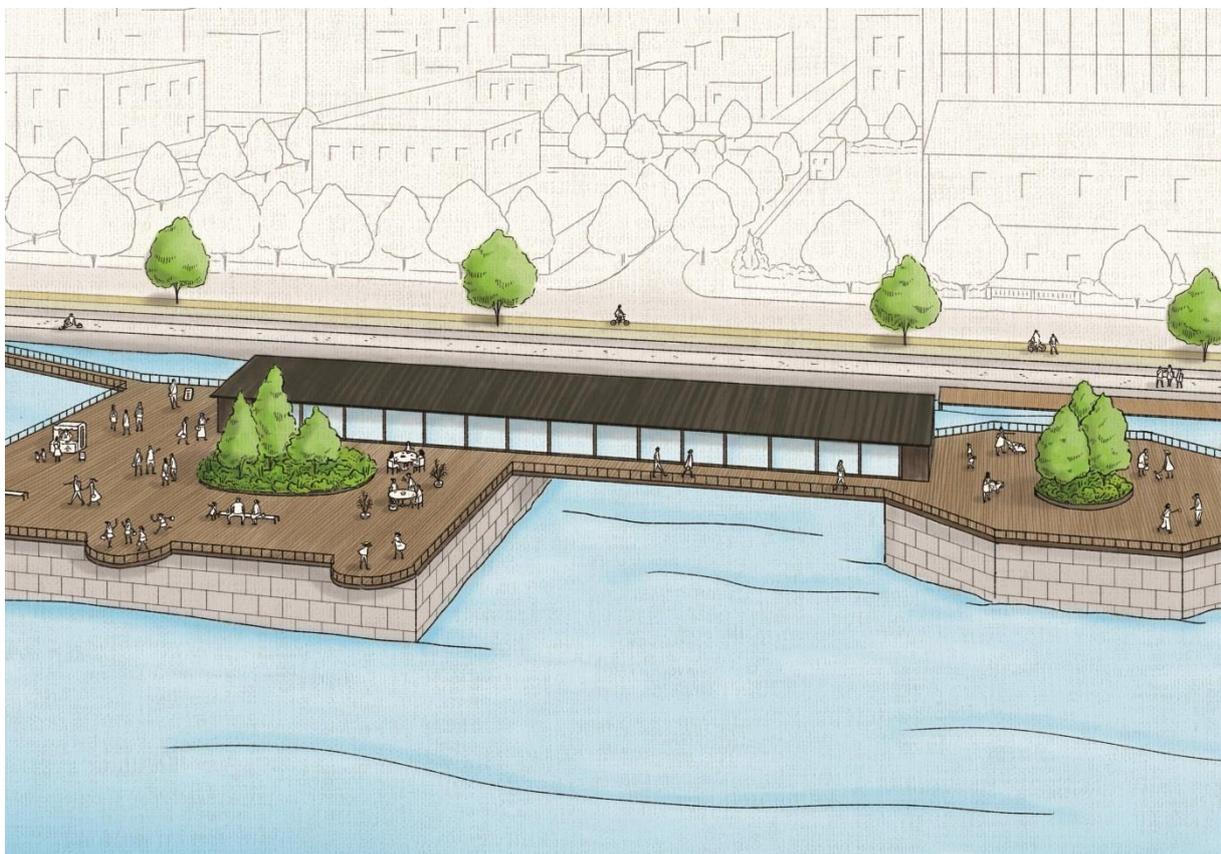


図 4.2 琵琶湖文化館ゾーンの活用イメージ図

(2) 現況駐車場ゾーン（エリア拠点）

- ・ウォーキング、ジョギング、サイクリング、フィッシング、ボートなどの利用者の拠点となる地区で、駐車場を併設し、自動車で来園した利用者が、自転車に乗り換えたり、ジョギングを行うなど、琵琶湖の雄大な景色を眺めながらスポーツを行う拠点として整備を行います。
- ・びわいちの拠点として、シャワー・更衣室施設、休憩施設、カフェ（軽食）等のスポーツをサポートする施設を配置します。



図 4.4 現況駐車場ゾーン（東側）の活用イメージ図



図 4.5 現況駐車場ゾーン（西側）の活用イメージ図

(3) おまつり広場ゾーン（イベント拠点）

- ・ 大津港や大津駅からの動線の結節点として、人々が集まる交流拠点、なぎさ公園や琵琶湖眺望のゲート空間として整備を行います。
- ・ 公園のゲートとして、イベントやサイクリングなど公園でできることを紹介する、公園のガイダンス機能を整備します。
- ・ 大津駅からのアクセスがよく、広いスペースが確保できる地区であり、琵琶湖に張り出したデッキ（栈橋）を設置し、多目的なオープンスペースとして活用できるように整備を行います。また、公園のゲートからイベント広場までの連続性、一体感を確保した空間整備を行います。
- ・ 地区に隣接する市民会館とも連携し、屋外及び屋内を併用したイベント等の開催を行います。
- ・ イベントは、芸術祭、音楽祭、マルシェなど様々な内容のイベントを想定し、電源、水道、テント設置用の孔、仮設トイレなど、インフラを整備します。
- ・ ペット連れの利用者も琵琶湖の眺望の中で遊べるよう、ドックランを設置します。



図 4.6 おまつり広場ゾーン（東側）の活用イメージ図



図 4.7 おまつり広場ゾーン（西側）の活用イメージ図

(4) 整備手法

- ・整備を実現するため、都市・地域再生等利用区域の指定制度の活用し、柔軟な空間活用を図ります。
- ・公募設置管理制度(Park-PFI)などを積極的に活用し、民間活力を呼び込み、持続的な公園整備を図ります。

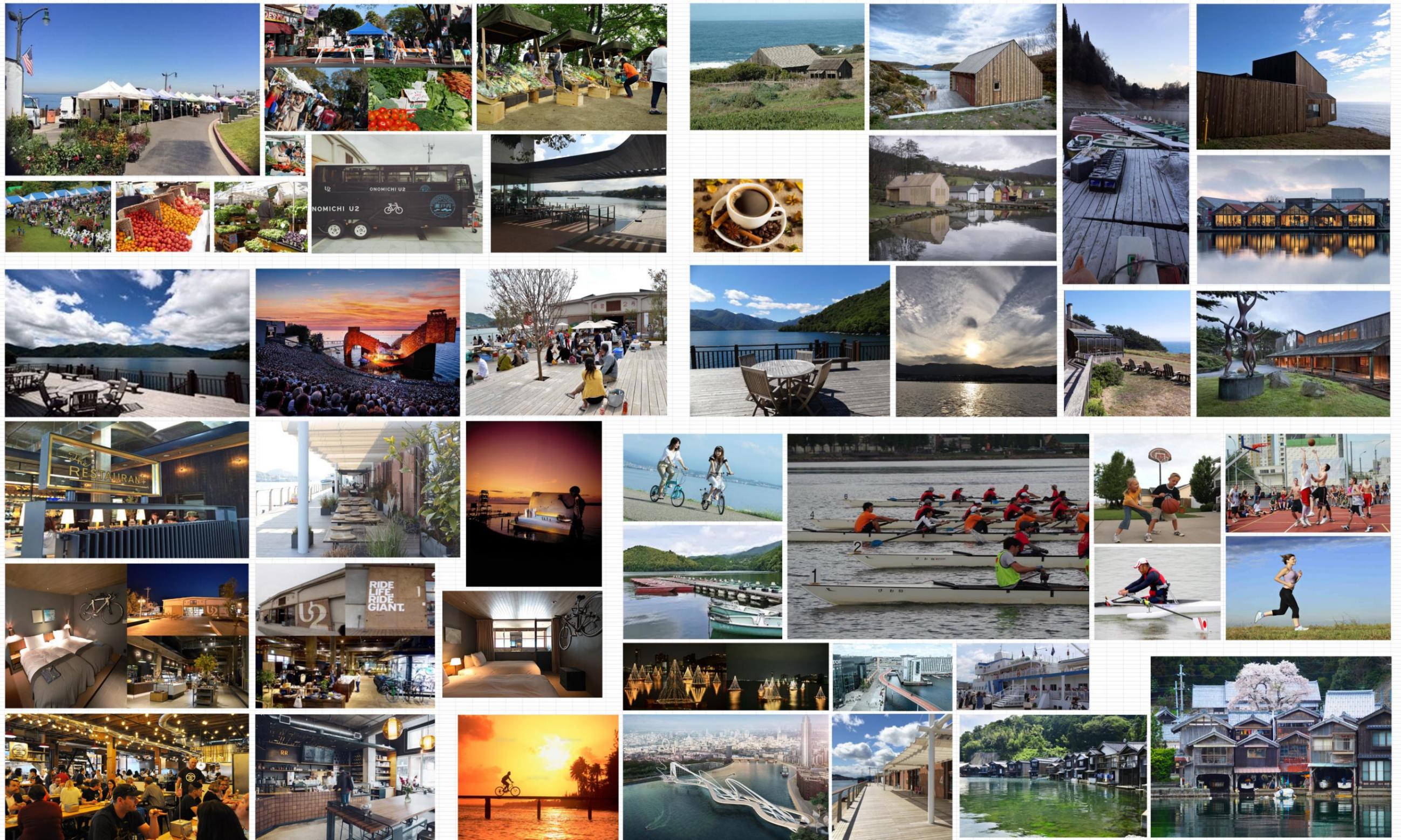
4.4 湖岸エリアの整備イメージ

提言内容を可視化するため、参考イメージとして、以下に示します。

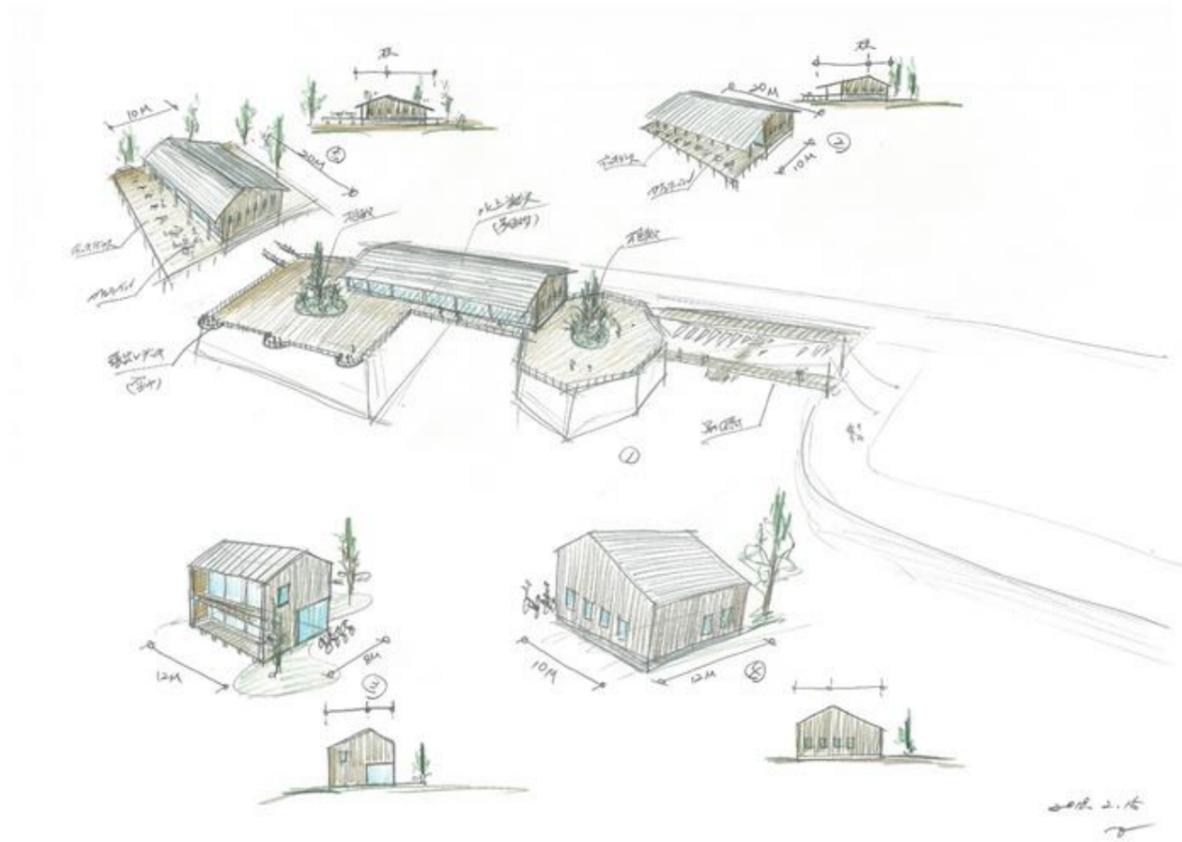
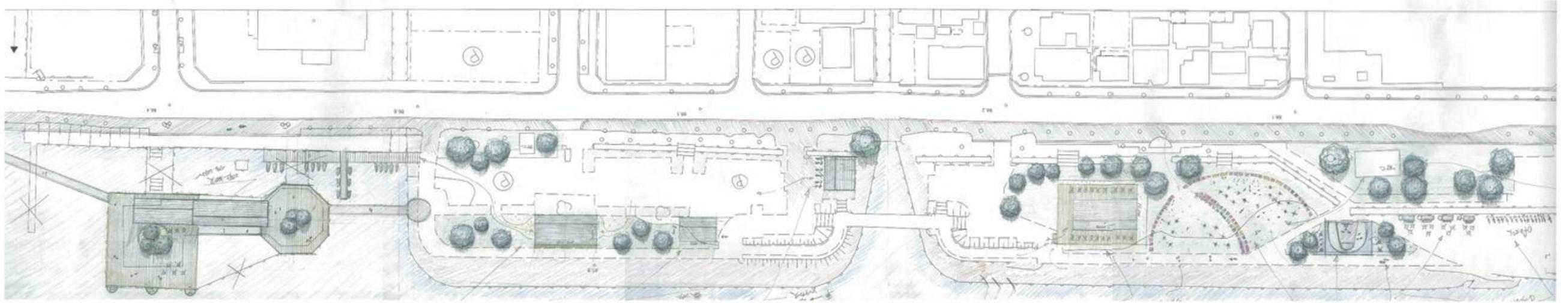


第5章 参考資料

5.1 なぎさ公園賑いのイメージコラージュ



5.2 湖岸デザインデッサン集



2018. 02. 17 大津市 湖岸デザインプロジェクト会議



大津市中心市街地活性化協議会
湖岸デザインプロジェクト会議 委員 （平成29年度）

リーダー	秋村 洋	(株)まちづくり大津	取締役
サブリーダー	松岡 拓公雄	亜細亜大学都市創造学部	学部長
	石川 亮	成安造形大学附属近江研究所	研究員
	山本 進一	(株)まちづくり大津	監査役 (平成25年度、26年度リーダー)
	川添 智史	琵琶湖汽船(株)	常務取締役